



鉄道開業150年×鉄道発祥の地 港区



令和4年は、港区・新橋と横浜間を結ぶ日本初の鉄道が開業してから150年の節目の年です。港区では、これを区の魅力を発信する絶好の機会と捉え、地元町会や商店会、鉄道事業者、全国各地域と連携を図りながら、「鉄道発祥の地 港区」の魅力をあらゆる機会を発信しています。

◆10月14日「鉄道の日」を盛り上げる港区のシティプロモーション

明治5年、日本初の鉄道が
港区・新橋と横浜間に開通

今から150年前の明治5（1872）年10月14日、新橋と横浜の間を結ぶ日本初の鉄道が開業し、これまで徒歩で丸一日かかっていた約29kmの距離を約53分でつなぎました。開業日に催された開業式は政府高官や外国の要人などを招いた盛大なもので、花火が上がったり、山車が練り歩き、多くの見物客で賑わったそうです。この開業式の様子は、錦絵にも描かれています。

当時の新橋駅は現在より東の汐留地区にあり、開業時は新橋停車場と呼ばれていました。この駅舎は関東大震災などの被害により失われましたが、発掘調査により駅舎の基礎やホームの遺構が発見されたことを機に、平成15（2003）年、当時の外観を忠実に再現した旧新橋停車場が再建されました。館内の「旧新橋停車場 鉄道歴史展示室」で、発掘された遺物や建物の遺構を展示しています。

旧新橋停車場（外観写真）



■旧新橋停車場 鉄道歴史展示室
住所：東京都港区東新橋 1-5-3
開館時間：10～17時（入館は閉館15分前まで）
休館日：月曜（祝祭日の場合は開館し、翌火曜休館）
入館料：無料

広告貸切列車と駅ポスター
で「鉄道発祥の地 港区」
をPR

港区では、50編成あるJR山手線のうち、1編成の車両すべての車内広告を港区が独占する広告貸切列車の「JR山手線ADトレイン」を10月2日から16日までの15日間走らせ、記念すべき「鉄道の日」を盛り上げました。

ドア横ポスターや中張りポスター、デジタルサイネージ（映像表示装置）などの媒体に「鉄道発祥の地 港区」というタイトルを掲げ、鉄道開業式や開業当時の蒸気機関車を描いた錦絵、昔の新橋駅の写真などを取り入れることで、「鉄道発祥の地 港区」を広く周知しました。

知しました。

加えて港区内にある観光施設の紹介も盛り込み、港区へ観光で訪れるきっかけとなることも取組の目的となっています。



「JR山手線ADトレイン」



「JR山手線ADトレイン」のドア横ポスター

「JR山手線ADトレイン」を実施している期間中は、港区内のJR線5駅（品川、高輪ゲートウェイ、田町、浜松町、新橋）に「港区で感じる鉄道開業150年」と題したポスターを掲出し、「鉄道発祥の地 港区」を重ねてPRしました。

10月中旬からは、鉄道の歴史や港区内にある鉄道関連施設の情報、まち歩きコースマップ、港区内のショップ情報などを掲載したマップ付き鉄道関連情報冊子を発行しています。

国内外から港区を訪れる方々に区の魅力を発信するため、区内ホテルを中心に観光インフォメーションセンター、区の施設などに配置し、区内観光の周遊につなげるツールとしています。

港区観光ボランティアガイドによるまち歩きツアー

今年には鉄道開業150年を記念した2つのツアーがあります。1つは10月15日に開催された「鉄道の大本山は港区ツアー」。新橋駅、品川駅のほか、一昨年誕生した高輪ゲートウェイ駅に焦点を当て、鉄道にちなんだ場所を巡りました。なおこのツアーは11月18日と12月2日にも開催を予定しています。

もう1つのツアーは10月20日に開催された「鉄道開業150年記念 新橋周辺の史跡を巡るツアー」。150年前に駅が誕生した新橋周辺を歩き、「旧新橋停車場 鉄道歴史展示室」のほか、江戸の名残を留める史跡や神社などを訪ねました。

広報番組や広報紙での積極的な情報発信

港区広報番組「こんにちは港区長です」の9月放送では、新橋を中心とした

地元町会長や商店会長のみなさんと、約50年前の写真とともに新橋駅周辺の歴史を振り返りました。鉄道開業100年の記念に設置されたSLの搬入する際の貴重な裏話、「新橋」の名前の由来等をお話いただきました。同番組の12月放送では、後述の港区立郷土歴史館の特展や「新橋SL広場鉄道フェスタ」の様子などについて紹介する予定です。

広報紙「広報みなと」では、8月以降の毎月21日号に「鉄道開業150年 港区と鉄道の夜明け」というタイトルでコラムを掲載している他、10月1日号では鉄道開業150年「鉄道発祥の地 港区」をPRするため、1面と見開きページの特集で区民に周知しました。



広報紙「広報みなと」10月1日号の1面

大井競馬場内の大型ビジョンやテレビ番組でもPR

東京シティ競馬（大井競馬）の東京メトロポリタンウィークで、10月7日

の第7レースを港区長賞「鉄道開業150年 鉄道発祥地港区賞」として実施しました。レース直前には、区長が鉄道と歩んだ港区の歴史を錦絵や写真で紹介した動画を競馬場内の大型ビジョンなどで放映しました。

また、翌8日に放送された「TOKYO MXの「ぐるり東京 江戸散歩」の「区長にききたい！東京ハッピーライフ」のコーナーで、区長が鉄道に関連する区内のお勧めスポットとして「旧新橋停車場」と「新橋SL広場」を紹介し、港区の魅力をPRしました。



「東京メトロポリタンウィーク」のPR動画

歴史的な資産を紹介することで「鉄道発祥の地」のレガシーを継承

SLを再塗装

「新橋SL広場鉄道フェスタ」

JR新橋駅日比谷口に設置している蒸気機関車（SL）は、今から50年前の昭和47（1972）年、鉄道開業100年を記念して旧国鉄から無期限で無償貸与されました。港区が管理しているこの場所は新橋SL広場と呼ばれ、港区を訪れた人の待ち合わせ場所として親しまれています。12時、15時、18時と、1日に3回鳴る哀調を帯びた本物の汽笛音も人気です。

このSLを今年の5月から7月にかけて、7年ぶりに塗り直しました。再塗装は腐食防止や修復のため定期的に行っています。鉄道の日の10月14日と翌15日には、きれいになったSLの前で鉄道開通150周年を記念した「新橋SL広場鉄道フェスタ」が地元町会や商店会による実行委員会主催、後援

港区、東日本旅客鉄道（株）首都圏本部、東京消防庁芝消防署で開催されました。当日は地元の小中学生によるダンスや太鼓の披露、昔の新橋駅の写



「新橋 SL 広場鉄道フェスタ」
チラシ

真展示、港区連携自治体による物販などが行われました。

高輪築堤のモニユメントの設置を計画中

日本初の鉄道が開通した際、現在の浜松町駅と田町駅の間から旧品川停車場までの約2・7 km間は海上に堤を築き、その上に鉄道を走らせました。この海上築堤は高輪海岸に沿って築かれたことから高輪築堤とも呼ばれ、その風景は錦絵にも描かれて、文明開化の象徴として人々に親しまれていました。が、大正時代の東京湾の埋め立て事業とともに姿を消しました。

それから時を経た平成31（2019）年、品川駅改良工事の際に石垣の一部が発見され、令和2（2020）年には発掘が行われました。現在は「旧新橋停車場」に追加する形で国史跡に指

定され、解体された石垣の一部は高輪築堤の建設を英断した大隈重信のふるさとの佐賀県立博物館に移設・展示されています。港区では「鉄道発祥の地港区」のレガシーを継承することを目的に、出土された石材の一部を「新橋SL広場鉄道フェスタ」で展示。今後は高輪築堤のモニユメントを同広場に設置する計画も進めています。

港区立郷土歴史館では 鉄道に関する特別展を開催

昭和13（1938）年に建設された旧公衆衛生院というゴシック調のデザインが特徴の歴史的建造物を活用し、港区の自然・歴史・文化を深く知り、交流する拠点として開館した港区立郷土歴史館。港区の魅力を感じていただける施設です。

10月14日から12月18日まで、特別展「鉄道開業150周年記念 人物でみる日本の鉄道開業」を開催中。日本初の鉄道開業について、歴史資料や出土遺物、錦絵などの資料と、大隈重信など鉄道開業に尽力した人々をとおして紹介しています。



■港区立郷土歴史館

住所：東京都港区白金台4-6-2 ゆかしの杜内
開館時間：9～17時（土曜のみ20時まで、入館は閉館の30分前まで）
休館日：第3木曜（祝日の場合は開館し、前日の水曜休館）
入館料（一般）：常設展300円、特別展400円、
常設展・特別展セット600円



「東京品川海辺蒸気車鉄道之真景」
／港区立郷土歴史館所蔵



「鉄道開業150周年記念
人物でみる日本の鉄道開業」チラシ

「鉄道」をキーワードに全国各地域との連携をさらに強化

鉄道開業150年を契機に 全国連携の取組を推進

港区は平成28（2016）年3月に

策定した『港区まち・ひと・しごと創生総合戦略』の基本目標の第一に「港区と全国各地の自治体がともに成長・発展し、共存・共栄を図る」を掲げました。地域の発展と住民の豊かな生活の実現に向け、全国各地域との連携を推進する専管組織を設置し、自治体間のみならず、住民間、産業間など幅広い連携に取り組んでいます。この全国連携の取組をさらに強化するため、今年10月14日の鉄道開業150年を契機に、鉄道にゆかりのある全国各地域の自治体との連携を深めています。

港区が連携している全国250を超える自治体に鉄道開業150年に係る取組への参加を呼びかけ、デジタルサイネージでの観光PR動画等の放映、全国連携情報誌「港から」特別号の発行、区有施設等を活用した物販の実施など、さまざまな事業を展開することとなりました。

観光PR動画等の放映と 全国連携情報誌特別号の発行

各自自治体の観光PR動画等は、7月

上旬から来年3月末までの期間、区有施設等に設置しているデジタルサイネージで放映しています。放映する自治体は岡山県津山市、福島県喜多方市、群馬県安中市、北海道旭川市など約20カ所。各自自治体の放映期間は2週間程度で、港区の情報と合わせて紹介しています。

また港区では、港区と連携している自治体のある各地域の「食」「文化」「観光」などさまざまな「魅力」や区の「全国連携」に関する取組を区内外に発信するため、全国連携情報誌「港から」を発行しています。今回は10月14日の鉄道の日に合わせて、「港から」鉄

道開業150年特別号を発行しました。通常は1000部発行して区有施設やイベントで配布していますが、特別号は朝刊折込みににより約6万世帯に配布しました。掲載自治体は、高輪築堤建設の立役者、偉人・大隈重信が生まれ育った佐賀県です。

連携自治体の力を活用した地域のにぎわい創出

区有施設等を活用した取組として、

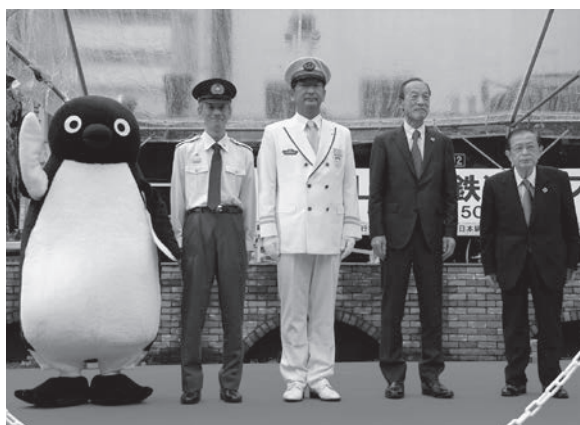
区役所1階ロビーで物販イベントを実施し、連携自治体の特産品販売や観光PRを行い、あわせて区役所1階ロビーでも特産品を販売しています。連携自治体の特産品販売は、10月19日から21日に新橋SL広場で開催された「全国交流物産展 in 新橋」でも行われました。

区役所食堂と連携した料理の提供では、10月11日から21日まで、区役所11階の食堂レストラン・ポートが連携自治体の特産食材を活用したメニュー「鉄道カレー」を販売し、自治体PRを実施しました。

また、地元の町会や商店会、鉄道事業者等と連携して実施した「新橋SL広場鉄道フェスタ」や「高輪地区まつり feat.Takanawa Gateway Fest2022」など、連携自治体の力を活用し、地域の賑わい創出や地域経済の活性化につなげています。



「高輪地区まつり feat.Takanawa Gateway Fest2022」



「新橋 SL 広場鉄道フェスタ」



「港から」鉄道開業150年特別号